

非核の政府を求める大阪の会

ニュース

第193号 2019年9月1日

非核の政府を求める大阪の会 豊島 達哉
 〒542-0012 大阪市中央区谷町 7-3-4 (新谷町第3ビル 210号)
 TEL.06(6765)3032 FAX.06(6765)3033
 URL・https://hikaku-osaka.jp/
 E-mail・hikakuosaka@hotmail.com
 hikaku-osaka1986@kind.ocn.ne.jp

NPT再検討会議・原水爆禁止世界大会inNYの成功に全力を



▲世界大会—長崎開会総会で主催者報告（国際会議宣言を説明）する安斎育郎さん

2020年を「核兵器のない世界」の歴史的転機に

原水爆禁止2019年世界大会が広島、長崎で行われました。広島には、当会から被爆者の松山五郎さん、長崎大会には大阪原水協顧問で当会の常任世話人の岩田幸雄さん、事務局の北野雅博さんが参加しました。

広島で行われた国際会議の宣言を紹介（抜粋）します。

「核兵器のない世界」を求める声は、国際政治でも、市民の間でも圧倒的多数である。そのなかで孤立する核保有国は、矛盾や対立をはらみながらも、核戦力の維持・強化のためには結束している。核兵器固執勢力と廃絶をめざす勢力の対立こそ、今日の核軍縮をめぐる世界の構図である。

核兵器禁止条約は、核兵器を全面的に違法化する規範をうちたて、その廃絶への重要な一歩を踏み出した。それは、核保有国に対する大きな政治的、道義的圧力となっている。核保有国の抵抗や逆流は、守勢のあらわれである。禁止条約にはすでに70か国が署名し、批准は24か国（国際会議終了後に25か国に）

に達した。発効は時間の問題である。この条約が発効すれば、さらに大きな力を発揮するだろう。

来年はNPT発効から50年である。五大国のみに核保有を認める不平等性にもかかわらず、多くの国がNPTを支持しているのは、核軍縮・撤廃交渉の義務（第6条）を明記しているからである。五大国がこれに背をむけつつけること許されない。五大国には、条約の義務をはたすのか否かが厳しく問われている。（中略）

被爆75年にむけ核固執勢力を突き動かす世論を世界と各国でつくろう。（中略）

そのために我々は、以下の行動をよびかける。

「*被爆証言（遊説）や原爆展を組織しながら、核兵器廃絶を求める多様な行動にとりくもう。」「ヒバクシャ国際署名」を1000万筆に達しようとしている。来年のNPT再検討会議と国連総会にむけて飛躍させよう。ヒロシマ・ナガサキの被

爆者、ビキニ被災者をはじめ、世界各地の核被害者とともにたたかおう。

*ニューヨークの原水爆禁止世界大会をはじめ、2020年NPT再検討会議での国際共同行動を成功させよう。

*軍事費の削減、紛争の平和的解決、外国軍事基地の強化反対とその撤去、軍事同盟の強化反対とその解消、枯葉剤など戦争被害者への補償と支援、平和教育の推進など、反戦・平和の諸課題にもとづく運動との共同を発展させよう。

*原発ゼロ、地球環境保護、貧困と格差の解消、生活向上と雇用の確保、社会保障の擁護・充実、ジェンダー平等の実現、民主主義と人権の擁護・発展、SDGsの達成をはじめ、さまざまな課題にとりくむ社会運動との連帯を発展させよう。

【非核五項目】

- ① 全人類共通の緊急課題として核戦争防止、核兵器廃絶の実現を求める
- ② 国是とされる非核三原則を厳守する
- ③ 日本の核戦場化へのすべての措置を阻止する。
- ④ 国家補償による被爆者援護法を制定する。
- ⑤ 原水爆禁止世界大会のこれまででの合意にもとづいて国際連帯を強化する

田辺 模範 追悼のつどい

東住吉区田辺に投下された模擬原爆の犠牲者を追悼するために、七・二六田辺模擬原爆追悼実行委員会により、毎年行われている「七・二六田辺模擬原爆追悼のつどい」に今年も地元市民や小中学生たちをはじめ府内各地から二五〇名以上が参列し開催されました。最初に、龍野繁子さんが当時の体験を交えてお話され、地元の連合町会長が核兵器禁止条約が採択されたにも関



わらず未だに発効していないことに触れ、「核兵器を無くし全人類の共存と繁栄を願うことが私たちの使命だ」と挨拶、投下時刻の午前九時二六分に黙とうしました。近隣の小・中学生や遠く泉佐野市から参列の中学生たちが、平和学習で学んだことや平和への思い、そして戦争の悲惨さを語り継ぐことの大切さを語り、平和を守り続ける決意を述べました。

模擬原爆投下跡地の碑は今年五月三一日に、元々設置されていた場所から数メートル南にある恩楽寺の山門に移され、追悼式もその境内で行われました。また、恩楽寺の本堂前の柱は、模擬原爆の爆風で歪んだそうですが、そのまま保存されてい

る。私は一九四八年生まれです。一八歳で大阪市役所に就職した時、年末に東京で開催される「日本のうたごえ祭典」に誘われました。



(右写真 爆風柱) ます。当会から、岩田常任世話人及び事務局が参列しました。

音楽と

♪ 新シリーズ登場 ♪

反核・平和

日本のうたごえ祭典は、今年で七〇周年を迎えます。その歴史の中で生まれた「反核平和のうた」を当会の常任世話人で大阪うたごえ協議会の立川孝信さんにその歴史とうたを紹介していただきます。

私のうたごえ人生

私は一九四八年生まれです。一八歳で大阪市役所に就職した時、年末に東京で開催される「日本のうたごえ祭典」に誘われました。

武道館で二万人もの人が心を一つに歌う姿は感動を通り越し驚愕の光景でした。それから私の「うたごえ人生」が始まりました。大阪

市役所グリーンコーラスに入団したうたごえで職場を明るくしようと「うたごえ喫茶や様々なうたごえ会・演奏会を取り組み平和で健康なうたごえを広げてきました。特に演奏活動では社会的テーマで市民合唱運動を取り組み、大阪大空襲・被爆2世・中国残留孤児などを取り上げ専門家と協力して作品を創造しました。特に大きな運動として成功したのは職場の父母の健康問題を取り上げミュージカルを創り、新聞にも大きく取り上げられ、その闘いが裁判勝利し労働者を励ます素晴らしい運動になりました。

この間「大阪のうたごえ協議会」の常任委員としても活動し、一九八九・二〇一三大阪城ホール・一九九八大阪ドームの「日本のう

たごえ祭典」を超満員にして成功させてきました。

二〇〇〇年からは男声合唱団昂で活動し、次々と団員が増える中でレッスン場を作ろうと言うことになり、何と私がオーナーとなり中央区谷町六丁目に「ねむかホール」を作りました。そして定年を機に泉北から中央区に転居してきました。とても快適で便利な暮らしを満喫しこの街になじんでいたところ共産党の後援会長をさせられ挙句の果てに市会議員まで立候補するこ

とになりました。この歳でという抵抗はありましたが橋下維新の文化潰しや人権蹂躪の思想調査をするなど怒り心頭でしたから「みんなの力で」の歌を作ったり大阪市歌をうたいガンガン喋りまくりました。みんなの力で都構想を否決勝利したことは大きな喜びです。まだまだ維新との闘いは続きますが文化の花咲く住みよい街をめざして平和のうたごえを広げていきたいと思

【秋のとりくみ】

◇ノーモア・ヒバクシャ近畿訴訟

10月11日(金) 11:00 1007号法廷
10月15日(火) 14:30 82号法廷
11月22日(金) 13:10 1007号法廷
判決日の詳細は未定です。

◇国連核兵器廃絶デー宣伝行動

日時: 9月26日(木)

詳細は大阪原水協まで。

◇国連軍縮週間のつどい

日時: 10月26日(土) 10:00~12:00

会場: グリーン会館

講師: 高草木 博氏(日本原水協代表理事)



非核と科学 No.12

原発と原爆の同異(七)



本誌一八五号で1個のU-235が核分裂で放出するエネルギーは約200MeVであることと記しました。この値は核分裂の前後で比較すると、分裂後では分裂前の質量の約0.09%が減少していることから、これをアインシュタインの式 $E=mc^2$ によりエネルギーに換算して得たものです。それでは核分裂によってこのエネルギーはどんな姿で放出されるか見てみると、①：一般に励起状態として生成される核分裂片の運動エネルギー、②：励起分裂片が放出する(即発)中性子の運動エネルギー、③：②と同時に放出される(即発)γ線のエネルギー、④：核分裂片の崩壊によるγ線のエネルギー、⑤：④に伴って出るγ線

のエネルギー、⑥：④に伴う(反)ニュートリノのエネルギー、です。前

に原発の原子炉は火発のボイラー部分に相当するものであると述べました(本誌191号)が、それは①～⑤のエネルギーを最終的には熱エネルギーとして回収しお湯を沸かしているということなのです(通常、⑥は透過力が強く殆んどが宇宙空間に逃げ出し回収不能なので含めません)。ここで指摘したいのは、②～⑥のエネルギーを全て回収できたとしても高々37MeV程度にしかならないという点です。したがって、最も大きな回収エネルギー源は何かといえば、それは取りも直さず①なのです。約165MeV(核分裂エネルギーの約80%)もあり、①～⑤を合計すると200MeVに近い値になります。それでは①のエネルギーをどうやって回収しているのでしょうか？

U-235の核分裂は燃料棒中のペレット内
Ba-141 + 3n
ここで、Kr-92、Ba-141が核分裂片で、それぞれの核の陽子(電荷はプラス)数は36と56です。分裂直後、36個と56個のプラス電荷間には強い静電反発力が働き、ものすごい勢いで互いに遠ざかる方向に飛び散ります(このときの運動エネルギーが①です)。ところが、分裂片の周りは燃料ペレットを作っているU-238とO-16の海ですが、核に注目するとプラス電荷92と8の核の海でもあるのです。今、分裂片がこの海の中を飛び散ろうとすると周囲の核から強い制動(静電反発力)を受けてせいぜい数十ミクロンの距離を進んで止まってしまうのです。つまり、核分裂片は殆んど燃料ペレット内にとどまることになると同時に、運動エネルギー①も全てペレット内で熱エネルギーとなり、ペレット

の温度はこのエネルギーによって上昇します。電気出力100万KW

の原発では1個のペレット(約5g)内で1秒間に約4兆(10の12乗)個の核分裂が起きていますので、ペレットには毎秒30カロリー以上の熱が運転中ずっと供給され続けています。この熱量はペレット内に蓄積され続けると多分数分もあればUO₂の融点(2850℃)に達してしまうほどの大きな熱量です。そして実は、この大熱量を燃料棒の外にある軽水に伝える、換言すれば、水によってペレットの熱を奪う、このことこそが①のエネルギーの回収という意味なのです。

100万KW級原発でとられている実際のエネルギー回収策は以下のようです。まず、UO₂でできた燃料ペレットは中心温度が融点を超えないように細く小さく作り(本誌191号)熱を逃がし易い寸法にしています。もしペレットが溶融すると、ガス

300℃位になるのですが、被覆管表面の制限温度を超えるわけにはいかないのです。300℃を超えないよう流量をコントロールしています。最後に、加圧下で300℃近い水は圧力を抜いた途端に約300℃の水蒸気になりますから、これをガスタ

ービンに導いて発電を行なっています。タービンに入る蒸気は高温であるほど電気エネルギーへの変換効率が高いのですが、原発では材料由来の制限温度が支障となつて火発より一段効率の悪い発電を行なっていることになりました。また、水は高速nを熱中性子にまで減速させる減速材の役割を果たしていることは前回に述べましたが、今回述べたことから、ペレットの熱を奪うことによつてペレットを冷却する冷却材の役割も兼ねていることが分かります。(以下次号へ)



新 常任世話人

に就任しました

日本コリア協会・大阪で理事長の任にある飯田光徳です。

コリア(朝鮮)半島、さらには北東アジアの非核・平和が大きな話題になっている時の就任に重く、深い意味合いを感じています。さて、この間の北東アジアの動きを皆さんはどう見ておられますか？

安倍政権は、七月一日、半導体関連三品目の輸出規制を発表。さらに八月二日、「安全保障」上を理由に優遇措置が適用される「ホワイト国」から韓国の除外を決定しました。表向きは、「安全保障上の問題」と装っていますが、日本の政府高官や経済産業省が認めているように徴用工問題での報復措置であることは明白です。韓国政府も対抗措置に出る構えです。一連の日本政府の動き

の根底には安倍政権の韓国「蔑視」があるように思えてなりません。その本音は多くの場合で垣間見えます。駐日

韓国大使への河野外相の「無礼な」発言、大法院の徴用工判決時の安倍首相の「あり得ない判断」などなど。上から目線の言葉が自然に出てくる姿は、これまでの戦後の日韓関係史の中でもなかったことです。

北朝鮮ミサイル発射を利用したように、今度「韓国憎し」の官製ヘイトを首相自らの内閣支持率を見事に上昇させました。実は安倍の「韓国憎し」キャンペーンは、いや「ムン憎し」ではないと考えますが、戦中、戦後、一貫して「妥協」に次ぐ「妥協」を繰り返してきた、日韓の保守派とそれを根底から変えようとする韓国勢力のぶつかり合いの一面面なのです。

日韓関係の大きな節目、一九六五年締結の日韓基本条約は「妥協」

の産物以外の何物でもありません。この条約には、植民地支配への反省も、謝罪も、補償も一切書かれていません。日本は経済協力の名のもとに資金を提供し、韓国は国としての謝罪さえ棚上げにし、様々な請求を放棄。その代わりに経済復興するための莫大な資金を手に入れたのです。

締結時の日本の首相は佐藤栄作、いうまでもなく安倍の大叔父。韓国の大統領はパク・チョンヒ、ロウソク革命で引きずりおろされ、囚われの身であるパク・クネ前大統領の父です。パク父はこの経済協力資金で「漢河(ハングァン)の奇跡」と呼ばれる長期の高度成長を勝ち取ります。当然この時期に儲けに儲けた日韓の企業が存在したのです。この高度経済成長政策のお手本が植民地時代、パクが学んだ陸軍士官学校のあった満州国にありました。満州「産業開発5ヶ年計画」です。もし

てこの経済政策を策定した人物こそ、何を隠そう当時の商工官僚、岸信介(満州国総務庁次長)なのです。安倍の祖父とパクは強いつながりがあったのです。ジャーナリストの青木理さんは、「日本の現首相は独裁と深く結びついた政治家の孫、韓国の現大統領はその独裁と民主化運動で闘った元弁護士。残念ながら完全な水と油、明るい展望は見えません」といいます。ムン大統領は半世紀以上続いていた「妥協」の産物を底から攪拌しにかかっています。安倍にとつては許しがたい暴挙をムンとその背後の市民社会が推し進めようとしているのです。

青木さんは「展望は見えません」といいますが、結論ははっきりしています。よく混ざり合うように「水」を「油」に変えればいいのです。アジアの諸国民に胸を張って平和・友好を語る「油」に変えればいいのです。

国民をだまし、アジアの国々を小ばかにしてきた安倍には植民地の責任、歴史認識問題を解決することは無理。「いつか来た道」への回帰なんてまっぴら、誰も望んでいません。それならやめていただきます。

北東アジアの非核・平和のために、日韓の市民社会の連帯で、「安倍退場」の声をあげ、追い詰めるステージの幕がいよいよ開きました。



ご 賛 同者を募っています！

『非核意見広告ポスター』

テーマ：「今こそ 核兵器禁止条約！
—憲法9条は世界の宝—」

募集大綱：団体一口 3,000円
個人一口 1,000円
申込締切は 10月15日

問合せ・申込先

「非核の政府を求める大阪の会」事務局

意見広告係

E-mail:hikaku-osaka1986@kind.ocn.ne.jp

E-mail:hikakuosaka@hotmail.com

